

VHT i-16 ユーザーズガイド Ver1.00



株式会社 サウンドハウス

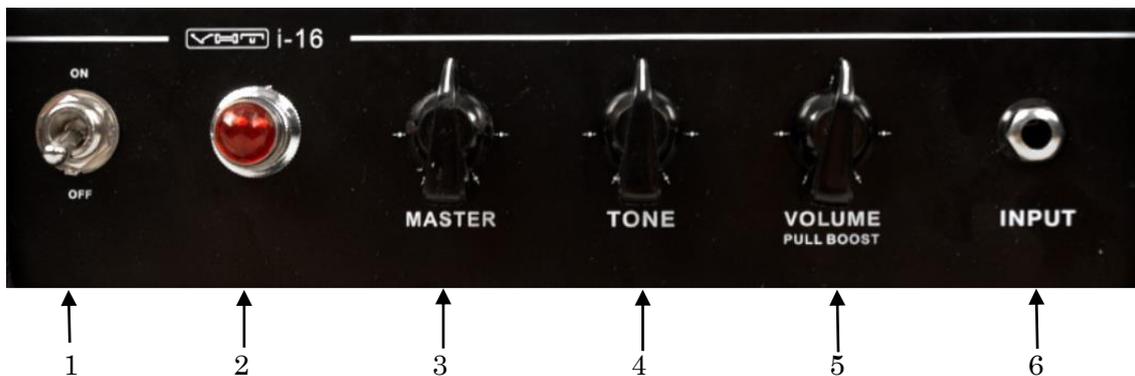
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3

TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222

<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

VHT i-16 ユーザーズガイド

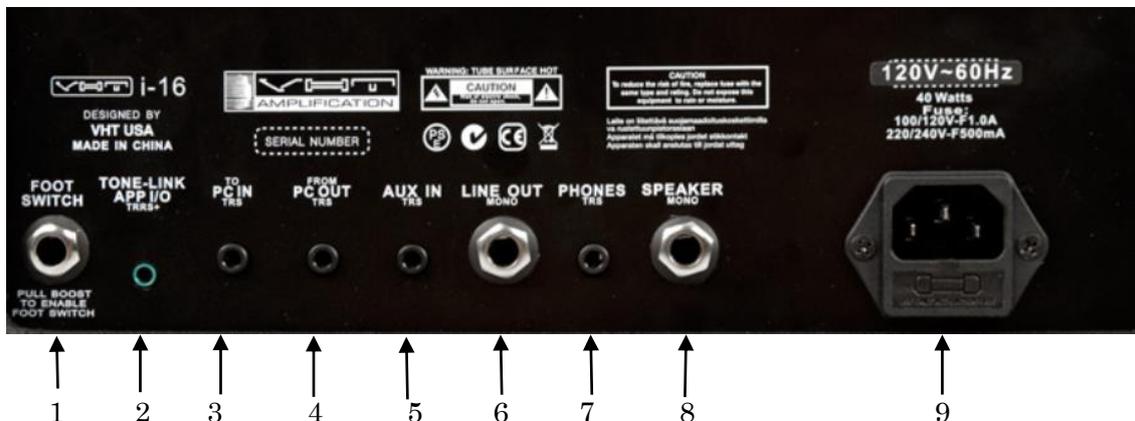
コントロールパネル



1. 電源スイッチ: メイン電源スイッチです。最初にこの電源を入れ、真空管のウォームアップをします。ウォームアップの時間は、通常 1 分程度です。
2. 電源ランプ: 電源スイッチがオンの時に点灯します。電源を投入後、真空管が温まるまでゆっくりと明るくなります。
3. マスター・ボリューム・コントロール: アンプの音量を調整します。
4. トーン・コントロール: このノブ 1 つで幅広い範囲のトーンを調整できます。シングルコイルの場合は下げ、ハムバッカーの場合は上げるようにすると効果的です。
5. プリアンプ・ボリュームとブースト・コントロール: プリアンプのボリュームをコントロールします。ノブを引くと、ブーストレベルを調整できます。ブーストレベルを上げると、中域が際立ちます。
6. インプット: ギター用の入力端子です。他の楽器や機器も接続可能です。

Note: コントロールパネル上のスイッチが押されている状態の機能のみ、フットスイッチでのコントロールができます。

リアパネル



1. フットスイッチ入力端子: 1 ボタン・ブースト・フットスイッチを繋ぎます。ブーストスイッチを踏むと、プリアンプのブースト機能が ON になります。ブースト・フットスイッチはブーストボタンが押されたときに機能します。
2. Tone-Link Amp I/O: iOS などの機器を接続します。接続には標準より 3mm 長い専用ステレオミニジャックを使用します。標準のステレオミニジャックは使用できません。
3. To PC In: i-16 の音を PC に送ることができます。接続には TRRS フォンジャックを使用します。Tone-Link で接続された機器の音は本アンプの真空管をってから PC に送られます。
4. From PC Out: PC からの音を入力します。接続には TRRS フォンジャックを使用します。
5. Aux in: MP3 プレーヤーなどの外部機器を接続します。接続には TRRS フォンジャックを使用します。
6. Line Out: ラインアウト端子。マスターボリュームで調整できます。
7. フォーン端子: ヘッドフォンを接続します。マスターボリュームにより、音量の調整ができます。ヘッドフォンを繋ぐと、スピーカーからの音は消音されます。マスターボリュームを使ってヘッドフォンの音量を調整できます。
8. スピーカー: ここに外部スピーカーを接続すると、内部スピーカーは消音されます。
9. 電源ソケット: 付属の電源ケーブルを使って電源を繋ぎます。ヒューズケースにはメインヒューズが収められています。ヒューズを交換する時はマイナスドライバーを使ってヒューズケースを開け、交換してください。安全とノイズ低減の為に、常にグラウンドを接続してください。

製品仕様

モデル: VHT i-16 – 真空管/トランジスター ハイブリッド型ギターアンプ

電源: 100V, 50/60 Hz

最大出力: 16 W

スピーカー(コンボ型): 8 インチ VHT 専用スピーカー(8 オーム)

アンプ型: トランジスター出力段付き高電圧真空管プリアンプ。高性能 VHT Tone-Link 回路採用。

真空管: 12AX7(300 V 電源駆動)

コントロール: ボリューム(ブースト)、トーン、マスター

寸法(H x W x D):

ヘッド: 17.5 cm x 33.5 cm x 20.0 cm

コンボ: 33.0 cm x 33.5 cm x 20.0 cm

重量:

ヘッド: 5.3 kg

コンボ: 7.4 kg

注意: Tone-Link の使用方法

- 1) ノイズ低減の為に、接続する機器側のボリュームレベルは最大にしてください。
- 2) 接続する機器がアンプのヘッドフォンモニターにセットされていることを確認してください。
- 3) i-66 のコントロールを中央にセットしてから微調整してください。
- 4) より強いハイゲイン・トーンを得る為にはプリアンプ・ブーストを使います。
- 5) 非常に高いゲインのアンプは甲高いフィードバック音を発生することがありますが、フィードバックが無くなるまでアンプの入力と出力レベルを減らしてください。
- 6) ほとんどの Tone-Link の問題はアンプ内で解決できます。問題の原因がはっきりしない場合、Tone-Link ケーブルを外すか、Tone-Link ボタンで接続を解除してください。Tone-Link を解除して、アンプ単独で動作する場合は、アンプ内の問題か Tone-Link ケーブルの問題に絞られます。

Note: Tone-Link 接続には標準より 3mm 長い専用ステレオミニジャックを使用します。標準のステレオミニジャックは使用できません。